

を開所、H22年には看取りを視野に入れ診療所を併設した「ほびー村」を開所し、地域の中に溶け込んで広がっています。埼玉県の「ぽけっとステイション」は自立に向けた支えあいを目標に市からの委託事業を含めた様々な自立支援事業を行っています。ワーカーズ・コレクティブ「たすけあい輪っはっは」は、生活クラブの委託事業のディサービスの昼食づくりとともに、地域に在宅し続けられるサービスを常に考え、たすけあいワーカーズ

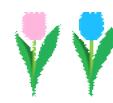
ならではの心づかいでサービスを行っています。

この分科会を通して地域での人ととのつながりを作ることの大切さを改めて感じ、障がいのある人、年長者、子供たちが安心して住める地域作り、「ないものは作る」という河田さんの言葉に感じ入った一日でした。

企業組合ワーカーズ・コレクティブ旬 渡辺 千枝



WNJ2012 国際協同組合年



ワーカーズ・コレクティブまつり

「協同組合地域貢献コンテスト」最優秀賞受賞記念

2012年12月23日、大田区産業プラザ pio 180名参加

つながろう全国のワーカーズ・コレクティブの仲間と



活動報告・グリーンコープ(九州)

WNJ が主催してワーカーズまつりが開催されました。午前中に福祉連絡会フォーラム、午後は全国の仲間の事例報告、会場にはワーカーズの品物や被災地カンパグッズが並べられ 2012 国際協同組合年の締めくくりになりました。



ブースでワーカーズのアピール

「介護保険・改定して、いい仕組みになったの？」
誰もが自分らしく暮らし続ける為の“ささえ”になってくれるのか？
福祉連絡会フォーラム参加報告

住み慣れた地域で暮らし続けるためのささえになりたい

2012年4月に介護保険が改定されての現状報告を聞いて納得したことがありました。介護保険の改定では、家事援助が薄くなるので私たちのたすけあいの依頼が増えると思っていましたが、ほとんど増えていません。利用者さんは介護サービスの時間が少なくなってしまって納得するしかないのでしょうか。それでも話し相手が欲しいのでしょうか、サービスに行っても家事援助の時間よりお話をうかがう時間が長くなったりするのが現状です。また介護をしているご家族のサポートをする依頼も多いのです。デイホームやショートステイを利用するなど、介護するご家族の時間は保てるようになってきていますが、まだまだ疲れています。ここが折れたり、気持ちが疲れたりしています。そんな方達の手伝いができたらと思い、家事援助に伺っています。

講演では服部万里子さん(立教大学教授、株式会社メディカル研究所所長)が、介護保険改定の国の政策について話されました。介護保険利用者が増える中(2025年に団塊の世代が75歳になり爆発的に増えると予測)、介護保険給付を少なくしていく方針であること、そのためサービス付き高齢者向け住宅などを増やし、一括で効率的に介護させる方向であることを説明されました。訪問介護事業所には厳しい未来です。

住み慣れた地域でずっと暮らし続けたいという思いで、利用者さんとご家族を支えてきました。これからの地域福祉を見守らなければならないと思います。

企業組合たすけあいワーカーズ輪っはっは
日原 久美子